

message ごあいさつ



理事長 岡部 憲昭

皆さまにおかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃から遠賀信用金庫に対し、格別のご愛顧、お引き立てをいただき、誠にありがとうございます。

今年も、地域社会に貢献する遠賀信用金庫の取組みをご紹介するディスクロージャー誌『ONSHIN REPORT 2021』が出来上がりました。できるだけ分かり易く作成いたしましたので、ぜひご高覧賜りますようお願い申し上げます。

さて、我が国経済は、昨年初頭から始まった新型コロナウイルスの世界的な蔓延により、厳しい状況が続いています。当地域におきましても、飲食業、宿泊業、観光業をはじめ多くの中小企業の皆さまや住民の皆さまに大きな影響が出ております。そのような中で、遠賀信用金庫は、お客さまへのご支援を最優先課題として全力で取り組んでいるところです。

昨年5月から始まった無利子・無担保の新型コロナウイルス対応融資につきましては、真にお客さまのためになるご支援に徹しながら、お取引事業先のほぼ半数に当たる約1,500先に対しまして、約180億円のご融資を実行いたしました。また、昨年10月には、新型コロナウイルスで影響を受けているお客さまの本業をご支援するために、本部内に「おんしんサポートチーム」を発足させました。さらには、本年2月には、日本政策金融公庫と中小企業基盤整備機構と協調して、資本性劣後ローンを組み込んだ新商品「グッドサポート」を創設しました。

新型コロナウイルスの影響で、イベント関連はほとんど中止せざるを得ない中で、昨年6月に医療従事者の皆さまを応援するために「おんしんエール定期」を発売し、集まった預金の一定割合(100万円)を福岡県に寄付いたしました。また、生活に困窮する大学生にお米を寄付したり、「新型コロナウイルス感染防止クイズ大会」を開催し、賞品を地元産品とすることでお客さまを応援する取組みなど実施しました。

令和2年度の決算につきましては、順調な業績を反映して、本業の収益は昨年度並みを確保しました。しかしながら、新型コロナウイルスの影響によるお取引先の先行きの経営悪化が懸念されることから、貸倒引当金の計上方法を一部変更して8億5千万円の積み増しを行いました。その結果、最終利益は前年度に比べ約1億円増益の約6億円となりました。貸倒引当金につきましては、前年度も新型コロナウイルスの影響を考慮して11億円という多額の積み増しを行っておりますので、今後の備えとしては十分な水準にあると考えております。

さて、今年度も最大の課題は、新型コロナウイルスへの対応です。資金繰り支援に加え、実効性のある本業支援にも注力していく必要があります。同時に、ポストコロナを見据えながら、デジタル化の進展や脱炭素化などの社会経済の変化にも適切に対応していかなければなりません。今年の9月にはインターネット支店を開設する計画で、デジタル技術を活用した新たなサービスのご提供にも挑戦してまいります。

地域社会は新型コロナウイルスに限らず、少子高齢化、後継者不足など様々な課題を抱えています。当金庫は、「スマート イズ ナイス」の矜持を胸に、役職員一丸となって地域の発展のために全力を尽くす覚悟です。

今後とも、遠賀信用金庫に対しまして格別のご厚情を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまのご繁栄、ご健勝を心よりお祈り申し上げて、ご挨拶いたします。

令和3年7月